

2026.7.30 (木)
第5回例会
(通算3862回)

2026-2027 年度 釧路ロータリークラブ会報

会長スローガン「志を継ぎ、未来を拓く 90 年」

会長 工藤 彦夫
副会長 市橋 多佳丞
幹事 八幡 好洋

例会日 毎週木曜日 12:30 ~ 13:30 夜間例会 18:00
例会場 釧路センチュリーキャッスルホテル
事務局 釧路市錦町 5-3 三ッ輪ビル 2F

編集責任者 クラブ会報・雑誌・公共イメージ委員会

☎ 0154-24-0860 📠 0154-24-0411

2026-2027 年度
国際ロータリーテーマ

持続可能な
インパクトを
生み出そう

CREATE LASTING IMPACT

2026-2027 年度
RI 会長 オンラインカ・ハキーム・ババロラ

第 2500 地区ガバナー
山本 倫生 (旭川 RC)

「親睦から始まる持続可能な奉仕!」

本日のプログラム 会員拡大について (会員増強・選考・職業分類委員会)

次 週 例 会 青少年犯罪の予防について (嵯峨記念育英会委員会)

■ロータリーソング：四つのテスト ■ソングリーダー：佐々木俊和君

■会員数 108 名

■ビジター 東京品川中央ロータリークラブ 相沢 峰会長

■ゲスト

会長の時間 工藤 彦夫会長

改めまして、こんにち。今日は、7月の24～26日に行われましたロータリーカップのお話をちょっとさせていただきます。



決勝戦は武修館高校と苦小牧中央高校でした。結局、3ピリを終わって同点だったので、最終的にシュートアウトと言うのですか、PKみたいな方法で3人が出るのですが、武修館が最初に2点入れたので武修館が地元で優勝して大変良かったなと思っているのです。

その前に、開会式のときに行われました江南高校と苦小牧東の試合のことです。結局は、江南高校の選手が6人しかいないのですよ。だからフルで出る。苦小牧東は、3セットあるので、どんどん交代して、3ピリオドで6対0、これ、絶対に入らないなあと思ったら、最後に江南が1点を取ったのですよ。(拍手) 江南の同窓会の会長さん、ありがとうございます。

それを見て僕が感じたのは、やっぱり何でもそうだけど、諦めちゃダメだな、負けるかもわからないけど最後まで一生懸命やるのが重要だ、ということを僕らに教えてくれたというのがひとつ。これがひとつ。もう本当に感動して涙が出そうな感じで。

もうひとつは武修館が勝ったこと。やっぱりフルに人数がいる方は強いということです。そこから、今日の会員拡大に入るのですけれども、人数が多い方がやっぱり何でもできます。きっと、江南高校は全員でずっと45分間をやっている。最後、ヘルメットを脱いだら湯気がボッポボッポ出ているのですよ。やっぱり大きい方が個人の負担は少ないということで、ロータリーも同じです。事業を行うにしても何を行うにしても少ないとやっぱり個人の負担が大きくなるという意味で、考えれば今日で108人になりましたけど、いつまた何があるかわからない、減るかもわからないということで、やっぱり常時会員拡大は、皆さんの頭に入れておいていただきたいというのがあります。今日は、そんな中で吉田委員長が練りに練った例会の資料を少し見せてもらいました。素晴らしい話ですので、皆さん期待して聞いていただきたいと思います。

品川中央ロータリーの会長さんもぜひ聞いてください。なにかかなり減ったらしいので、頑張っていたきたいと思います。

幹事報告 八幡 好洋幹事

幹事報告をさせていただきます。明後日、8月1日土曜日9時からウインドヒル東北海道スタジアム(釧路市民球場)にて第17回全道中学校親善硬式野球大会の開会式を行います。集合は8時45分までとなっておりますので、ぜひ多くの皆さまにご参加をお願い

します。

また、翌8月2日日曜日、こちらは14時頃を予定しておりますが、閉会式を開催いたしますのでこちらもご参加いただきたいと思います。試合の進行によっては1時間程度前後するケースがありますので、ぜひ余裕を持って多くのメンバーにご参加をいただきたいと思います。

また来週の例会、8月6日の嵯峨記念奨学金の奨学生との嵯峨久像の清掃活動に先立ちまして8月3日の14時から理事会メンバーを中心に清掃活動を行います。8月6日の事業には現在のところ8名の奨学生が参加予定となっております。

以上で幹事報告を終わります。

90周年実行委員会事業部会 日理 一哉君

皆さん、こんにちは。90周年記念実行委員会事業部会の日理です。先週のビアパーティーでもお伝えしましたけれども、ようやく斎藤佑樹さんの記念講演会をお知らせする段取りが整いました。ここに来るまで紆余曲折がありまして、ようやくここまでたどり着きました。あとは、動員が成功すればいいのかなというところまで漕ぎ着けました。何とかメンバー1人が5名ぐらい集めていただければ、500人があつという間にいってしまいますので、動員のご協力をよろしくお願いいたします。

帰りにチラシとポスターをお渡ししますので、ぜひ持ち帰っていただいて、知人、会社の同僚とかにお伝えいただいて、多くの皆さまで有意義な時間を過ごしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

新入会員紹介

スポンサー 樋口 貴広君

邊牟木敬史さんをご紹介します。邊牟木さん、NHK釧路放送局の局長です。前任の桑島さんからの後任となっております。東京から転勤されてきております。年齢は昭和43年生まれの58歳です。ご家族は奥様が埼玉県の方に住まわっておりますので、単身でこちらにいらっしゃっております。

趣味につきましては、ゴルフはされない。麻雀もされない。ですけども、その他の趣味が結構多彩でして、ランニング、登山、カヌー、読書、映画鑑賞と、アウトドアからインドアまでいろいろ様々で、釧路はものすごくぴったりの土地ではないかなと思っております。うちのクラブにも登山やカヌーとかの趣味の方がいらっしゃいますので、ぜひお声をかけていただければと思います。

それでは、自己紹介をお願いします。

新入会員

NHK釧路放送局 邊牟木 敬史局長

皆さん、こんにちは。邊牟木と申します。この度は歴史と伝統のある釧路ロータリークラブに入会をお許しいただきまして、誠にありがとうございます。うございます。



私の名前を聞いてこの人どこの出身だろうと皆さんが思っているかと思います。この名前は、鹿児島県のほうの名前です。私の両親が種子島出身で、そのルーツをたどるとどうやら、鹿児島の薩摩藩に「へむき」という名前があって、うちのほうは種子島に流れてきたとか、そういうルーツと聞いております。

私自身は、大阪で生まれて大阪で育って、大学時代を東京で過ごしました。

NHKに入って最初の赴任先として配属されたのが北見放送局です。もともとは北海道には縁もゆかりもなかったのですが、北見放送局に配属されて北海道のことが大好きになりました。以来、北見放送局、札幌放送局は都合2回勤務しています。函館放送局にも4年間勤務しました。これまで延べ13年間を北海道で勤務しております。北海道のことはひととおり知っておりますし、いる間に、釧路にも度々足を運ばせてもらってこの地域を楽しませてもらいました。この度、9年ぶりに北海道の勤務になりました。「もう一度、北海道に戻りたい」とずっと協会に言っていて、ようやく願いが叶って北海道に、この釧路に来ることができて非常にわくわくしております。

私、趣味がランニングなのですが、早速、先週の釧路湿原マラソンに参加させてもらって、何とか完走をさせてもらったのです。釧路での生活を楽しませてもらっております。

今後もこの釧路の地域の発展のために貢献していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

スポンサー 天方 智順君

渡辺敏哲さんをご紹介します。北海道電力ネットワーク支店長として、桑原さんの後任にあたる方です。ゴルフも麻雀もされないようですが、趣味としてドライブ、音楽鑑賞。先ほどお話しさせていただいたら、学生時代は吹奏楽をやられていて、トランペットを担当されていたようです。トランペットは吹奏楽の中ではエースの楽器なので、ぜひとも、釧路ロータリークラブの中でもエースを目指していただければと思います。

ご家族は、奥様と一緒に住んでおられて、お子様はそれぞれ独立されているということです。年齢も若いで

すね、昭和 44 年 12 月生まれです。樋口君と話していたのですが、次々と偉い人が私より年下になって、私も入会 20 年が済んだのでこういうものかなと思っています。それでは、わたなべさん、よろしくお願いいたします。

新入会員

北海道電力ネットワーク釧路支店 渡辺 敏哲支店長

こんにちは。ただいまご紹介いただきました北海道電力ネットワーク釧路支店のわたなべと申します。この度は歴史と伝統のある釧路



ロータリークラブに入会をさせていただきまして、本当にありがとうございます。大変、光栄に存じます。

私は、ただいまご紹介いただいたとおり、北海道電力ネットワークということで、主に北海道内を転勤して歩いてきました。ここ釧路も 25 年前に 3 年間勤務した場所です。学生も北海道で北見を卒業しまして、旭川で入社し、その後、遠軽、留萌へ行っていて、4 カ所目が釧路だったのです。そのときは、田舎と言ったら怒られますが遠軽、留萌はちょっと小さな町でしたから釧路と聞いたときには、都会に行けると思って本当に嬉しくて、その時は家族ともども来ています。私はちょうど 30 歳を過ぎたところで、仕事も大変面白くなってきたときですし、家族も子供たちも幼稚園をここで卒業しています。そんなすごい思い出のあるあの場所で、またこうして、釧路で仕事ができることを大変嬉しく思っております。

大変お世話になった土地ですから、今度は、私がこの立場で来たこともありますので、皆さまに、あるいはこの釧路地域で恩返しをする番だと思ってまいりましたので、微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

歓迎のことは 工藤 彦夫会長

邊牟木さん、渡辺さん、入会おめでとうございませう。というより、入会を心より感謝申し上げます。

ロータリーにはいくつかのルールがあります。ルールというか、義務 2 つ目が、機関誌の購読です。機関誌が出ているのです。一般では売っていません。ぜひ読んで勉強してロータリーの知識を付けていただきたいと思います。3 つ目、奉仕活動への参加。いろいろな奉仕活動を例会の他にやっていますので、ぜひとも時間があれば。今年から例会案内の他に奉仕活動を書いてありますので、わからないことがあれば幹事に聞いて、ぜひとも参加していただきたいと思います。4 つ目が例会への出席。例会に出席することによって

ロータリーを理解するのと、友情の構築ということで、夜例会もありますので、進んで参加していただきたいと思っています。

定款にはいろいろルールを書いていますけども、あまり重要じゃないです。それをまともにやっていたら、うちのメンバーはこんなにはいませんので。それを見ながら、とにかく参加するようにしていただきたいと思っています。

5 つ目が、これは最近言われているんですけど、会員拡大の協力ということで、もし、お知り合いで入会したいと言う人があれば、会員拡大委員会というのがありますので、そこに声をかけたり、幹事に声をかけたりしていただきたいと思います。

まず、何よりもロータリーに出て楽しんでいただけることが一番ですので、ぜひとも参加していただければと思います。来週の例会で顔を合わせるのを楽しみにしております。

配属委員会は、お二人とも親睦活動委員会になります。曾我部委員長、あの方です。そして副委員長が西田君、おりましたね。はい。よろしくお願いいたします。以上です。

■ 本日のプログラム ■ 青少年犯罪の予防について

会員増強・選考・職業分類委員会

前田 秀幸副委員長

ご無沙汰しています。皆さん、こんにちは。会員増強・選考・職業分類委員会の今年度、副委員長を仰せつかりました前田です。よろしくお願いいたします。



本日は、当委員会の担当例会でご出席いただきまして、皆さま誠にありがとうございます。今年、釧路ロータリークラブ創立 90 周年を迎えるという大きな節目の年を迎えております。そして 10 月には大事な 90 周年記念式典があります。

それに向けてと言いますか、このような節目の年だからこそ、これまでの歴史に感謝するとともにこれからの 10 年、そして 100 周年へ向けて私たちは何を大切にしていくなべきかを考える機会にしたいと思っています。

吉田委員長が、誰でもかかれでも入れる拡大ではない。あくまでも委員会名で付いているように会員増強、やっぱり釧路の素晴らしい方がわが誇れる釧路クラブに入っていて、1 人でも多くの仲間を作りたいという大きな意味でこの例会を設えさせていただいて

おります。

本日の例会では、会員を増やす方法を、ただ単にお話するだけではなく、なぜ会員増強が必要なのか、そしてロータリーにはどのような魅力があるのか、私たち一人一人に何ができるのか、という三つの視点から皆さまと一緒に考えていきたいと考えております。

本日の発表は、それぞれ担当者がテーマごとにお話をさせていただきます。まず、最初には佐藤貴之君より、会員増強の意味。続いて東堂光晴君より、ロータリーの魅力。そして最後に小林裕介君より私たちにできること、この3点のテーマでお話をさせていただき、最後に吉田委員長から本日の総括・まとめをさせていただきます。

本日の例会が、皆さまそれぞれが終わった後に、誰か1人1人増強するにあたっての思い浮かべる時間になっていただければ幸いと存じます。

この方ならロータリーの仲間として一緒に活動していただけるのではないかと。そんな人とのご縁が釧路ロータリークラブの未来につながっていくものと信じております。

それと委員長が渾身の力を込めてパワーポイントを作っておりますのでこちら、お話を聞きながら、こちらにも目を向けていただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは講演に移らせていただきます。最初に会員増強の意味について、佐藤貴之君、よろしくお願いいたします。

佐藤 貴之君



皆さん、こんにちは。佐藤です。パワーポイントがあるとは知らなくて少し動揺しております。吉田委員長がうまくやっていたかと思

います。

私はそんな会員増強を喋るような立場でもないのですが、委員会の台本に沿って進めさせていただきたいと思っております。

会員増強です。皆さん、会員増強と聞くと、まず会員を増やさなければならぬとか、目標人数を達成しなければならぬとイメージする方も少なくないと思います。しかし、会員増強というのは、ただ人数を増やすとかそういうことだけではなくて、新しい会員を迎えるということだと思っております。

新しい仲間が増えると新しい考え方が増える。それに伴って新しい職業の方との出会いも増えることが考えられます。それによって奉仕の形も、また新しいも

のが生まれてくるでしょう。会員増強は、クラブを大きくする活動ということだけではなく、クラブを豊かにするという活動が見込めます。

新しく入会された方が入って良かったと思えるようなクラブを作っていかなければならない。このクラブで活動して良かったと思っていただけることが本当の会員増強であると考えております。だからこそ、会員増強とは会員増強と会員の維持、どちらも進んでいかなければいけない。このどちらか一方だけではいけない、と思っております。

ということで吉田委員長の台本が終わってしまったのですが、残り5分時間があります、吉田委員長、スライドの方はどうでしょうか。動いてないような感じがするのですがよろしいでしょうか。はい。それでは、少し時間がありますので、大したロータリー経験もない私の今思っている、今のこの時代の考え方を少しお話をさせていただければと思います。

去年、佐渡直前ガバナーが来た時に、佐渡さんは常に会員増強とおっしゃっておられました。とりあえず、いろんな方に声をかけてまず入会を勧めるというお話をされておりました。そこで、ガバナー例会の前に行う理事者と委員長が集まって行う会議で、私は盾突いたわけでも、カミついたわけでもないのですが、一意見として「いろんな方を入れるのはよくないのではないか」という意見を佐渡ガバナーに言ったのです。吉田栄一委員長と同じような、多分、皆さんもそういう考えの方いらっしゃると思うのですが、そしたら、「それは違う」と倍返し以上の感じで反論されました。横にいた荒井会長が「大丈夫かな」という顔をされていまして、このガバナー訪問例会が終わった後に謝罪に行ったのです。

要は、佐渡さんが言っていたのは、釧路クラブもそうだと思うのですが、入会されても、例会に来ない方とか、冬眠されている方がいて、何かのきっかけでスイッチが入って来る方とか、多分、皆さんも経験あると思うのですが、そういう方がいるかもしれない。頭ごなしに否定するのはよくないと。そういうことをおっしゃっていたのだなと思っております。釧路クラブもいろんな方を選考するにあたって、理事会で名前を出したりして、いろんな方がお話を聞いて、この人はいいい、この人はダメという選考を行って、いろいろ声掛けがあるのですが、釧路クラブに関しては全く心配ないと思います。ちゃんとブレーキがかかっているし、モラルのある方がちゃんと勧誘していますから。

ですが、当時、私が佐渡さんにそう言われていろいろ考えた。ただ、私がやられたというだけの話かもしれないのですが、私の中では、そういう形で吉田委員長と一緒に考えですけど、いろんな方をむやみに声掛けしてはいけない。そのとき



の時代によっても違うだろうし、社会情勢に応じて。

私はラーメン店という職業ですけれども、釧路ロータリークラブの90年前の

チャーターメンバーのときは、多分、ラーメン屋は入れなかったと勝手に想像しております。チャーターメンバーにお蕎麦さんで竹老園の伊藤さんはいましたけれども、今の私の規模のラーメン店という職業では入れなかったのではないかなと思っております。

今、こうして90年経って、私はいま恥じないようにラーメン店として頑張っているのですけれども、ただ90年前の考えの方がいらっしやると多分私入れないのだらうなという思いもございます。

その時代背景もいろいろ変わってきて、90年経ってラーメン屋が入ってもおかしくないという、今のロータリーにありますので、そこは柔軟に対応していきながらいろんな方に声をかけるのがいいのかなと思っております。

というわけでそろそろお時間がちょうどぴったりになりましたので、吉田委員長、よろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

というわけで、会員拡大の会員増強の意味ということでお話をさせていただきました。ありがとうございます。

東堂 光春君

皆さん、こんにちは。私も一昨日、吉田委員長から連絡ありまして、「ロータリーにはどのような魅力があるのかを語ってく



れ」ということで、原稿がメールで入ってまいりました。それがパワーポイントの内容なのですね。なので、脱線しないようにしなきゃいけない。パワーポイント、僕も今知りました。

ロータリーの魅力は、人によってそれぞれ様々あると思いますが、まずは、私が入会して間もないころ、どういう感じだったかです。令和2年に入会しまして6年目に入りました。まだまだ僕もペーペーなのですが、入った当初は、ちょうどコロナがありまして、1年間ぐらい、ほとんど出ていなかったのです。やはり経験ある方はわかるとは思いますが、出ていないと、だんだん出づらくなってきて、変な理由をつけて欠席をしがちになります。

そのときに吉田潤司パスガバナーから、「3カ月、とにかく頑張って出なさい。そしたら必ず開けるから」

と言われました。そこから頑張って出ようかなと思いはじめたのですが、やはり出る直前に理由をつけて欠席をしてしまいました。そのときにちょうど親睦委員会もあって、当時、瀧波委員長がしつこく連絡をくれるようになりました。委員会の1週間前、3日前、前日、1時間前、絶対に欠席できないような状況を作っていました。そこからだんだんとロータリーの魅力である皆さんの魅力を感じるようになって、例会もだんだんと参加するようになってきたというのが、入会間もないころでした。

私もやはり今の立場になると、新入会の皆さんに声かけとか連絡は本当にしつこくやった方が、多分、出られていない本人にとっては、すごくありがたいのかなというように感じていますので、私も声かけをいっぱいしていきたいなと思います。

そして一昨年、高橋会長年度のときに幹事のお話がありました。そのときに、RLI（ロータリー・リーダーシップ・研修会）が、オンラインで6回、強制参加をしなきゃいけないのがありました。高橋会長も途中で1回断念をされた研修会ですが、僕は無事に終了して卒業できたのですが、この時にやはり2500地区のいろんなメンバーとオンラインですけれども、ロータリーとは何かとか、奉仕の意味はなにかというのを1日6時間ぐらい、缶詰になって、6回をやりました。地区の中でもいろいろな知り合いが増えたのが実感としてありました。本当、あのとき受けて良かったなと思っております。

幹事になって、強制的に人と関わらなきゃいけないという立場になりました。幹事やって良かったと思うのが、やはりいろんな方と関わることができて、いろんな調整などをやって、知り合いが増えたというのは本当に実感としてあります。すごく貴重な1年半を過ごさせていただいたなと思います。

国際奉仕委員長もやらせていただきました。ロータリーに入ってから台湾に3回、タイに2回、行かせていただきました。そこで実感したことは、世界は本当に広いなと思ったのは、「ロータリー」と言っただけで、お互いは何も知らないのに通じ合えるというか、握手をしたりハグしたりもですね。本当そういうのが不思議でならなかったのです。自分も行って見て、本当にすぐに友好的になれるのです。

一番すごかったのが2年前、台北中央ロータリークラブに行ったときに、吉田委員長とある会合をさぼって、有名な火鍋屋に食べに行ったときに、銀座にも出して火鍋屋のオーナーさんがちょうどそのお店にいて、ロータリーの話をしたら、そのオーナーさんもロータリアンだったのです。それでいきなり吉田委員長に「ロータリアンなら日本で出店するときはぜひ言ってください。すぐ準備しますから」と、そんな話になりました。そしたら「火鍋屋、誰がやろうか」の話にな

るぐらい、すぐにロータリアンとして溶け込めるのが本当に魅力的だなと思いました。

タイに行ってもそうです。普通に旅行とか仕事で行ったら関われないような方々とロータリアンと言っただけで、つながれるというのが本当に魅力だなと思いました。

僕が言いたかったのは成長なのです。幹事になって成長することができました。新しい仲間との出会い、新しい考え方、自分自身の成長です。入会して終わりじゃなくて、特に僕みたいな某青年団体とかに入っていない方にとっては、だんだん年をとっていくにつれて友好関係が少なくなっていくと感じています。

ロータリーに入ると、入会してから世界が広がっていくという、年を追うごとに広がっていくのを実感しております。それもまた魅力なのかなと思います。

あとは、会員増強ということで。私もいろんな人に声をかけていただいているのですが、いかにせん 30 代の経営者の知り合いが多いものですから、なかなかすぐ入会とはならない方が多いのです。多分、100 周年に向けては残り 10 年の間にたくさんの人に本当に入会していただいて、一緒にこの良さを分かち合いたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

小林 祐介君

皆さま、ご無沙汰しております。転勤族の東京海上日動の小林です。どうぞよろしくお願いします。

私は 5 年目に突入をしております。いわゆる当クラブの転勤族軍団の中では、ひょっとしたら私の後に入った方はもう 2 人ぐらい後任の方をお迎えしていますので、地元なのか、転勤族なのか、極めて中途半端な立ち位置を自覚しております。今年もしっかり活動をしなればと思った次第です。

私などに、というところではあるのですが、「私たちにできること」というお題でのお話を仰せつかりましたので、いくつかお話をさせていただきたいと思っています。

私は、当クラブ 2022 年に天方さんにスポンサーをいただきまして、皆さまに入会をお許しいただいた身でございます。

転勤族には「前の勤務地」というのがあります。以前は山口県周南市という出光さんのお膝元の町にも 1953 年創立の徳山ロータリークラブがありました。あちらの地域では非常に古いのですが、釧路クラブか

ら 17 年ほど後にできているクラブですけれども、ここに入会しておりました。会員数が 50 名から 60 名の間を行ったり来たりでした。

釧路クラブに来て改めて良さというか、本当にありがたいと思ったところをいくつかお話をさせていただきたいと思っています。

先ほど、皆さまが話しているとおりの、何でも、入りやすい

というか、私などの側からしても、溶け込みやすいクラブに入らせていただいているのだなと。裏を返せば、以前のクラブが結構厳しくて体育会系のノリで、ゴリゴリと来ているところが非常にあったという経験をしているものですから、なおさらなのです。この歴ではなく、会社の仕事はどうとかは脇に置いて、私からすると、普段の仕事、ビジネスの中でお会いできないような皆さまの違う顔、いわゆるお仕事ではない場面で、それこそ執行部・理事の皆さまがクリスマスパーティーでいろいろパフォーマンスをやっているなんて、前のクラブでは全くなかった。もう、入った順に、若い順にあれをやっていたのがありました。そういったところからも、このクラブの人の魅力です。人の魅力、溶け込みやすい空気を皆さまお一人お一人が醸し出しています。その積み重ねにきつと私は本当に救われているのだろうと実感しました。さぼっちゃいけないのですが、本当に居心地良く過ごさせていただいているような格好です。

クラブでどんな活動をしていたか。もちろん経験不足の私ですので、施策、行事に全くお役に立てていない自覚はありますが、そういった活動に思い出というより、やはり皆さまの一人一人の顔の方が先に浮かぶなあ、というのが正直な思いです。

私も実は吉田委員長のレジュメを今、見えていますので、現在進行形なのですが、何か行事で出来事があるというよりは、皆さまと親しくお話をさせてもらっている。しかも、仕事抜きでという立場で話をしながら、でもそれが、自分自身の肥やしになる、学びが多いなと思っております。そういうところでは、このクラブでどんな活動をします、というのがあるのが望ましいのかもしれませんが、それは目的ではなくて、結局はやはり皆さま、皆さまお一人お一人には、これから入会してくる人たちにとっては、大きな財産になるというか、魅力があるのだろうなと考えております。

今、スライドもありますけれども、まずは来てみたら、この空気に触れてみると、これから入ろうとしている将来の会員の皆さまにとって、いい想いと、伝わるものが確実にあるのだろうなと考えておりまして、ス



ピーチめいたところをお話させていただきました。「一度、例会を見に来たらどおでしょう」「ご飯を一緒に食べましょうか」という形のお迎えの仕方、それをしっかり私たち一人一人がお迎えをすることで伝わるものが一番強く訴える力になるのだらうと考えております。

拙いお話で、ありがとうございます。どうも失礼しました。

会員増強・選考・職業分類委員会 吉田 英一委員長

なにか1人でやっていると感じますけど。実は、月曜日に委員会をやりまして、そこでコンセンサスを取りまして、何とか今日の例会に至っております。



これも、ひとつの学びと思っております。まさしくロータリアンでなきゃできないことと思っております。本日、3人の方にお話していただいて、ロータリーの価値や意味を皆さんと共有していただくような例会の場を作らせてもらいました。

大事なことは、なぜ入会をお勧めするのかを、みんなの意味や価値を共有しながらしっかりとスタート地点に立つということが重要だと思っております。なぜこの7月に会員拡大・会員増強の例会を私どもにやってほしいと来たのか、を考えました。やはり90周年だから100周年に向けて、今までの90年は誰かが1人ずつ会員拡大・増強をして、そして関わって行って、いろいろな事業に参加をして、学んで、いいと思ったら他に自分がイメージしている方に声をかけていく。これが会員増強のやり方だと思っております。

リストに「はい、何人」と誰でもかれでも名前を適当に書いて、顔を見たら「入れ」「入れ」と言うよりも、ちゃんと選考をしていくことも重要かなと思っております。

今年度のR Iのババロア会長の言葉をこのパワーポイントに書いたのですが、「例会やプロジェクトの中で、誰かのロータリーのストーリーは、私たちの歓迎する姿勢ひとつで始まり、私たちの無関心によって終わるかもしれないのです」という言葉がR I会長の言葉にあります。僕が勝手に、「私たち」と「無関心」という言葉を追加したのですが。

皆さんも見たことあると思うのですが、ロータリーに入った人が一人ぼっちで席に座っていたりとか、誰も声もかけない方もたまにはいたりします。もしかしたら、われわれの無関心によって「もう、行かないかな」とか「居心地が悪いな」とか思っている方もいるかもしれないので、皆さんが笑顔で迎えて、

会長がいつも言っている退会防止、そして新入会員のフォローをスポンサーだけがやるのではなくて、しっかりと皆さんでフォローしていく、これが重要だなと私は思いますが、皆さまはどのようにお考えになりますでしょうか。

ありがとうございます。それで、論語を入れさせていただきました。「徳は孤ならず必ず隣あり」という論語です。ロータリーは徳を積む団体だと思っています。いろいろな勉強をして素晴らしくなりたい、素晴らしい方もたくさんいらっしゃいます。そういう人の周りには必ず人はいるのですよ、と。一生懸命頑張っている人は、徳を積んでいる人は、一人にはならないんだよ、と。必ず仲間が集まって来るのですよ、という有名な論語があります。

90年前、誰かが1人の仲間に声をかけました。そして、今年は100周年に向けて、私たちがその1人になる1年になります。ぜひ、この人という方をイメージしていただいて、例会にまずお連れして、今は108人ですので、ぜひ120人、130人となるように頑張っていければと思っております。

本日はどうもありがとうございました。